山右るの故よ吉ほまを出ゐ中一首を得る
其吉大也今朝林亭主人死生関を免禮て
青春西を走る窓よく世ろんおなる哉
在原無極書画

水無月中六日業よ
よをて笠置おを
籠て車いつる豊後橋
の宮うのく駕よ柔
遽と呼ぬ
駕のまの團扇を持て衣ニ

巨椋江月、西よ傾ふく
順風を或ハ茶なそ
を運ひ連く煙草の
洞薄雲るゝを荷馬
乃嘶き、草を蹈もる
小鳥ゐを唱ふ東雲を
漢本の小み漕徃も

月のくゝ宮治山涼ゝゝ

く禮およ笠置ゝ到る
涼風の岩蔭くる也笠置山

北笠置ニお野屋ゟ
泊りくねおゐ宿ほれハ
よき雨と言をす少ゐ牧張の中

+